

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：22401

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K19827

研究課題名(和文)通所介護における生活行為の向上を視点としたマネジメントモデルの開発

研究課題名(英文) Development of a management model from the perspective of improving daily Life performance in day care services for the elderly

研究代表者

白倉 京子 (Usukura, Kyoko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：90433169

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は、通所介護における生活行為の向上に関するサービスの実態等を明らかにし、要介護高齢者に対する生活行為向上マネジメントモデルを開発することである。研究方法は、(1)通所介護事業所における生活行為向上への取組に関するデータベース分析、(2)通所介護における生活行為向上への取組に関するフィールド調査を行った。(1)では、機能訓練士指導員の職種による課題の捉え方の違い、(2)では、Surveyにおける利用者の意向確認、不十分な心身機能等の評価が明らかになった。そこで、生活行為の向上に向けたマネジメントプロセス(SPDCA)ごとの課題を整理し、対策を検討し、研修会を開催し研究成果の啓発に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

通所介護は介護保険対象者の3人に1人が利用し、そこでの介護の質は我が国の高齢者介護の水準を問うものである。通所介護は、身近の世話に加え、心身機能から生活行為向上までの訓練を総合的に行う機能が求められる。研究では通所介護の現状として、生活行為の向上までの支援が十分でないこと、支援の展開に必要なマネジメントプロセスごとの課題を明らかにし、対策を検討した。さらにこれらの研究成果を、研修会という形で埼玉県の通所介護事業所に啓発できたことは、社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to clarify the actual situation of services related to the improvement of daily life performance in day care services for the elderly, and to develop a management model for improving the living behavior of the elderly requiring nursing care. As a research method, (1) a database analysis on efforts to improve life performance in day care services for the elderly, and (2) a field survey on efforts to improve daily life performance in facilities for the elderly were conducted. In (1), it was clarified that there was a difference in how functional training instructors perceive the tasks depending on their occupation, and in (2), confirmation of users' intentions and evaluation of mental and physical functions in the survey were insufficient. Therefore, we organized the issues for each management process for lifestyle behavior improvement (SPDCA), examined countermeasures, held workshops, and worked to raise awareness of the research results.

研究分野：高齢介護、地域リハビリテーション、作業療法学、福祉工学、社会医学

キーワード：通所介護 生活行為 マネジメント

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

通所介護(デイサービス)は介護保険対象者の3人に1人が利用し、そこでの介護の質は我が国の高齢者介護の水準を問うものである。通所介護は、身の世に加え、心身機能から生活行為向上までの訓練を総合的に行い、自立した在宅生活の継続につなげる機能が求められる。

しかし、利用者の当面の生活援助やリスク管理を優先し、個性のない介護の提供になりやすい。また、アセスメント、目標、プログラム、評価指標等は統一された基準はなく、運用は各事業所に委ねられ、生活行為向上を視点としたマネジメントについては計画的な見通しに欠ける。

2. 研究の目的

本研究では通所介護における生活行為向上に関するサービスの実態を明らかにし、その質を評価するとともに、生活行為向上を視点とした総合的なマネジメントモデルを開発することを目的とする。

3. 研究の方法

研究は、(1)通所介護における生活行為向上への取組に関するデータベース分析、(2)通所介護における生活行為向上への取組に関するフィールド調査を行う。以上の調査より、生活行為向上を促進するマネジメント(プロセス、内容、効果、運営条件、地域特性)について総合的に検討し、運用可能なモデル案を考案する。

4. 研究成果

(1) 通所介護における生活行為向上への取組に関するデータベース分析

介護サービス情報公表システム(厚生労働省・都道府県)から、9都道府県を選択し、個別機能訓練加算を届けている通所介護事業所を対象とした。分析項目は、設置主体、規模、定員等の基本情報、職員体制(職種、常勤換算数、機能訓練指導員の資格、雇用形態、業務形態等)、利用登録者数、加算の届出状況等とした。

- ・通所介護事業所数は、65歳以上人口と相関していなかった。
- ・設置主体は、営利法人、社会福祉協議会、社会福祉法人と自治体により異なっていた。
- ・生活行為の達成を目標とする個別機能訓練加算の申請率は約3割であった。
- ・機能訓練指導員の保有資格は、看護師・准看護師(非常勤-非専従/常勤-非専従)が多く、理学療法士・作業療法士等のリハビリテーション専門職(常勤-専従)は少なかった。

(2) 通所介護における生活行為向上への取組に関するフィールド調査

1)パネル調査:個別機能訓練加算を届け出ている3県の通所介護事業所を調査対象とし、利用者(認知症は除く)及び機能訓練指導員に、郵送法を用い2回(初回・6か月後)調査を実施した。調査内容は、利用者の基本情報(年齢、要介護度、心身機能、入院・通院状況、利用サービス等)、ADL、IADL、社会参加、生活満足度等、機能訓練アセスメント、計画、実施、評価等とした。

- ・利用者は要介護1・2で、運動機能障害、疼痛のあるものが多く、健康状態については、不満はあるものの、生活の質は普通とするものが約半数みられ、個別機能訓練及び通所介護の満足度は高かった。
- ・ケアプランの目標は「心身機能の維持」と「健康管理」が多く、機能訓練指導員は「歩行」、「入浴」などを課題としていた。
- ・機能訓練指導員の資格別の優先課題は、理学療法士「歩行」、作業療法士「買い物、公共交通機関利用」、准看護師「筋力向上」など異なる(図1)が、実際に行われている機能訓練は、歩行・移動、筋力維持訓練に集約され(図2)、大きな違いはなかった。

図1 各職種が捉えた最も優先順位が高い日常生活上の課題

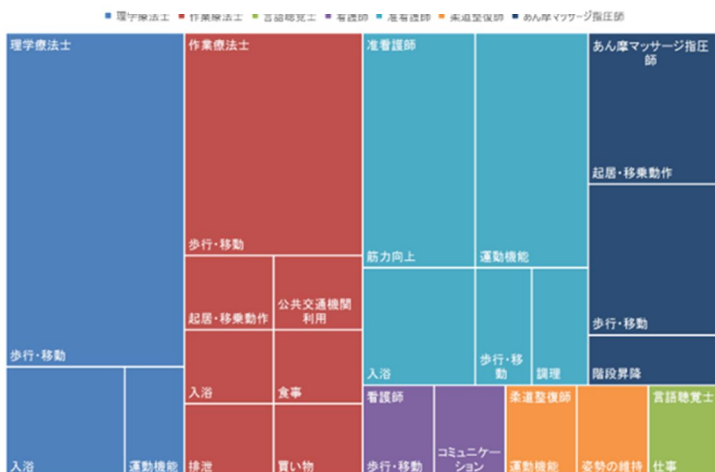
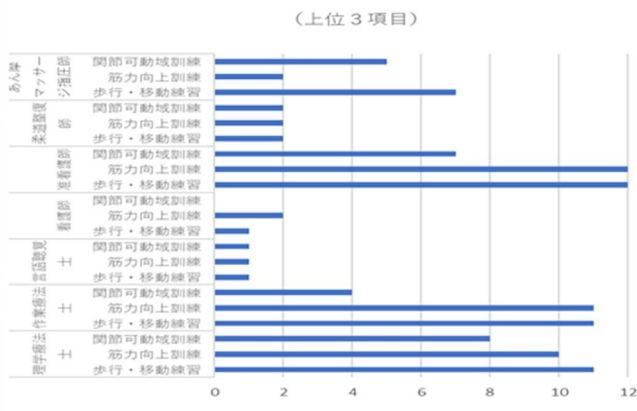


図2 職種ごとの優先課題に対する訓練内容



・個別機能訓練加算 対象となる利用者の3カ月後の変化では、要介護度はほぼ維持、ADLは維持・向上、IADLは介助が必要/未実施の傾向がみられ、QOLに有意な変化はみられなかった。

2) 事例調査: 1) ヒアリング調査; 通所介護事業所の利用者(又は家族)と機能訓練指導員に個別機能訓練加算に関して、ヒアリングによる予備調査を実施した。2) 視察調査; 先進的な取組を実施している国内の施設(大分県、千葉県)を視察し、生活行為向上に資する具体的なプロセスや運営条件など関連要因を探索した。

・機能訓練指導員は、訓練計画に関する手順<sup>2)</sup>(評価指標がない等)や実務上(人員、保有資格の違い)の課題を抱え、研修体制を求めている。

・利用者は、自分の目標を自覚し訓練の内容を理解して前向きに取り組むという姿勢に欠け、利用者の主体性がおきざりになっている現状が、明らかになった。

・個別機能訓練加算 関連書類では、事業所全てに共通する項目(本人の希望、目標、合意)もあれば、「活動・参加」の項目が全くない施設もあった。リハ職がない事業所では、「社会参加(地域活動・役割)」、「家庭での役割」、「利用者本人の具体的な希望内容」などはみられなかった。SPDCAサイクルにもとづく、希望から評価内容、課題の抽出といった思考過程のつながりは、計画様式では十分には読み取れなかった。

・先進事例として、リハ職がいる事業所を視察した。いずれも、生活行為課題解決への取組として、できないこと、できそうなところを見極めていた。その方法としては、以下の3つが共通していた。

生活歴を基にしたコミュニケーションで、やりたい生活行為を絞る。

実際の生活行為の工程観察で、どこができないのかを具体的に把握する。

生活機能の要因を評価し、改善のために身体機能の訓練とともに代償手段や環境を利用する。

### 生活行為の向上を視点としたマネジメントプロセスと課題

通所介護で実施すべき取組の一つに、アセスメントに基づく個別サービス計画の立案、計画に基づくサービス提供、計画の評価及び見直しといったPDCA(「P(Plan);計画」、「D(Do);実行」、「C(Check);評価」、「A(Action);改善」)に基づくサービス提供があげられる<sup>1)</sup>。当研究では、要介護者の具体的な生活行為の達成に向けた個別機能訓練加算をターゲットとするため、Planに至るまでの利用者個々の意向と心身機能や環境等の状態を把握する「S(Survey);調査」を重視し、SPDCAに沿った課題を整理した(図3)。この課題の解決策を検討し、通所介護における生活行為向上を視点としたマネジメントモデルのプロセスを考究した。

まず、サービス提供の出発点となる「意向の確認」として、利用者と機能訓練指導員ともに、課題となる生活行為は何かという点が十分に抑えられていなかった。この背景には、利用者の希望は聞き取るが、利用者自身がこれまでの人生の過ごし方を語りながら、今までできていた、または、やりたいと思っていたが、要介護の状況になりできなくなった、やれるとは思えなくなった、生活行為は何なのか、いわゆるこれからの人生で達成したい生活行為を具体的に絞っていく、面談プロセスが十分でない可能性が考えられた。

次に、「アセスメント」して、生活行為のどこができないのか(評価・工程分析)、なぜできないのか(要因分析)、できる見込みはあるのか、どのようにしたらできるのか(改善策検討)、という、つながりのあるアセスメントプロセスの課題もみられた。機能訓練指導員の保有資格によっても、評価指標や、生活行為を観察し分析する力といったアセスメントの状況は異なり、リハ職の視点を参考とすることが、アセスメント力を養う上で効果的と考えられた。

図3 機能訓練におけるマネジメントプロセスの課題と対策(研修会)

マネジメントプロセス	課題例	リハ職以外	リハ職
修正・引継ぎ	社会参加・アウトカム評価不十分	△	△
実施・モニタリング	身体機能に偏る	△	△
プランニング	課題解決プランでない。役割分担見えない	△	△
合意	自ら何のために何をやるか見えない	△	○
③改善策検討	身体機能改善策に偏り	×	○
②要因分析	要因分析、予後予測ができない	×	○
①評価・工程分析	評価指標がない(特に社会参加) 何ができないのか焦点化できない	△	○
意向の確認	自らしたいことを語れない、具体的にでない	△	△

○できていない、△一部できていない、×ほとんどできていない

**研修会:** 研究から見えた課題の改善を目指し、通所介護の個別機能訓練の質を高めるために、埼玉県「高齢者元気力アップ応援事業所」認証事業と協働し通所介護を対象とした研修会を開催

**2019年度**  
アセスメント・プラン力を高める  
「生活課題解決型機能訓練研修」

**2020年度**  
意向の確認: やり取り/取り戻したい生活行為の具体化  
「利用者の意向確認の現状・課題、対応方法」

**2021-2022年度**  
Survey; 意向の確認とアセスメント、Planまでの流れを一貫して学習できる「心身機能の維持回復から社会参加に至るまでの戦略的自立支援ケアの実践」

### 対策(研修会)の検討と実施

研究から見てきたマネジメントプロセスごとの課題への対策を検討し、埼玉県地域包括ケア課と協働し、通所介護事業の機能訓練指導員等を対象に、研修会を企画・実施した。Surveyの「意向の確認」と「アセスメント」は、具体的な生活行為の達成を目的とする個別機能訓練加算において、マネジメントの展開の初期段階にもあたり重要である。そこで、2019年度にリハ職の視点を入れ込んだ教材を作成し、「生活課題解決型機能訓練研修会」、2020年度に社会的自立支援指標等を例とした「利用者の意向確認の現状・課題、対応方法」の研修会、2021年度と2022年度には、Survey; 意向の確認とアセスメント、Planまでの流れを学習できるシートを作成・使用し、「心身機能の維持回復から社会参加に至るまでの戦略的自立支援ケアの実践」の研修会を開催した。なお研修会の効果把握を目的に、研修会前後と3か月後にアンケート調査を行い、現在分析中である。

## ■ 今後

令和3年度介護報酬改定では、個別機能訓練加算（身体機能向上を目的）及び加算（生活機能向上を目的）が統合された。これにより、利用者の心身の状況に応じて、身体機能・生活機能向上を目的とする機能訓練項目を柔軟に設定することが可能となり、より一層、質の高い機能訓練が求められる。生活機能向上連携加算は、ICTの活用により外部リハ専門職などが訪問せず利用者の状態を把握・助言する区分が設けられ、このようなサポート体制を活用しつつ、限られた人的資源の中で、多職種で連携し、情報交換を行い、効率的な方法を検討することが重要である。通所介護の個別機能訓練においては、地域生活での自立支援、重度化防止を狙いとする役割がますます期待される。当研究においては、通所介護の機能訓練の現状と課題、対策をSPDCAの真似しメントプロセスごとに把握してきた。しかし、研究の限界もあり、一つめは今回のデータベース分析が限られた地域となっており、今後は全国レベルでの調査分析が必要と考える。二つめは、外部リハ職との連携について、現状を把握し、どのような体制が望まれているのか検討していく必要がある。三つめは、通所介護における社会参加（地域での主体的な社会との関わり、役割）への支援についてである。今回は、通所介護における社会参加への取組について十分な検討はできなかったが、IADLや社会参加については、評価指標もほとんど使用されておらず、サービスの実施もままならない状況が予想され、地域での主体的な社会との関わりに着目した通所介護における機能訓練マネジメントの必要性を強く感じる。また、研修会の効果把握を目的とした部データは分析中であり、公開していく予定である。今後は、これらの研究の限界を踏まえ、さらに研究を展開していきたい。

## ■ 文献

- 1) 厚生労働省、平成27年度介護報酬改定に向けて [http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000055673.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000055673.pdf) (参照2016.06.15)
- 2) 厚生労働省、老振発第0327第2号、通所介護及び短期入所生活介護における個別機能訓練加算に関する事務処理手順例及び様式例の提示について、[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/koureihoken/kaigo\\_lib/tuutitou/9\\_tankiseikatu.files/kobetsukinou-kasan.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/koureihoken/kaigo_lib/tuutitou/9_tankiseikatu.files/kobetsukinou-kasan.pdf) (参照2016.05.14)

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 常盤文枝、白倉京子、小池祐土、河合綾香、菊本東陽、金さやか、張平平	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 通所介護事業所における生活行為の課題解決に向けた機能訓練指導研修会プログラムの作成と実際	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 リハビリテーション連携科学	6. 最初と最後の頁 91-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 常盤文枝、白倉京子、張平平、金さやか、菊本東陽.	4. 巻 20
2. 論文標題 埼玉県の通所介護における個別機能訓練加算（ ）の算定状況と課題：個別機能訓練指導員の保有資格による影響.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リハビリテーション連携科学	6. 最初と最後の頁 167-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 白倉京子、常盤文枝、張平平、金さやか、菊本東陽	4. 巻 19
2. 論文標題 通所介護における機能訓練指導員が捉える生活行為を視点とした機能訓練の取組と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リハビリテーション連携科学	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 金さやか、白倉京子、常盤文枝、星文彦、張平平、菊本東陽、藤縄理	4. 巻 7
2. 論文標題 個別機能訓練加算（ ）関連書類からみた通所介護における個別機能訓練のSPDCAサイクル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療福祉科学	6. 最初と最後の頁 26-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -



〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Pingping Zhang, Kyoko Usukura, Fumie Tokiwa, Fumihiko Hoshi, Sayaka Kon, Toyo Kikumoto, Yuji Koike, Ayaka Kawai
2. 発表標題 Efforts to improve daily life performance in community-living elderly people who use daycare services-Review of Japanese literature people
3. 学会等名 Advanced Nursing-2019 Global Conference on Nursing Care & Education. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 常盤文枝、臼倉京子、小池祐士、河合綾香、菊本東陽、金さやか、張平平
2. 発表標題 通所介護事業所における生活行為の課題解決に向けた機能訓練指導研修会プログラムの作成と実際
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学第21回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumie Tokiwa, Kyoko Usukura, Fumihiko Hoshi, Osamu Fujinawa, Toyo Kikumoto, Cho Heihei, Sayaka Kon
2. 発表標題 Features of functional training in Outpatient Day Long-Term Service in Japan- Analysis of Long-Term Care Service Information database in Saitama Prefecture
3. 学会等名 The 21st International Epidemiological Association (IEA), World Congress of Epidemiological (WCE2017). (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

通所介護における生活行為向上を視点としたマネジメントに関する研究 <a href="https://www.spu.ac.jp/Portals/0/News%20file/sangaku/kenkyu/201906_PJB.pdf">https://www.spu.ac.jp/Portals/0/News%20file/sangaku/kenkyu/201906_PJB.pdf</a> 通所介護における生活行為の向上を視点としたマネジメントに関する研究 <a href="https://www.spu.ac.jp/Portals/0/News%20file/sangaku/kenkyu/201804_PJB.pdf">https://www.spu.ac.jp/Portals/0/News%20file/sangaku/kenkyu/201804_PJB.pdf</a> 通所介護における生活行為の向上を視点としたマネジメントに関する研究 <a href="https://www.spu.ac.jp/Portals/0/News%20file/sangaku/kenkyu/201804_PJB.pdf">https://www.spu.ac.jp/Portals/0/News%20file/sangaku/kenkyu/201804_PJB.pdf</a>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	常盤 文枝  (Tokiwa Fumie)  (00291740)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授    (22401)	
研究分担者	星 文彦  (Hoshi Fumihiko)  (40165535)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授    (22401)	
研究分担者	菊本 東陽  (Kikumoto Touyou)  (30550735)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授    (22401)	
研究分担者	張 平平  (Cyou Heihei)  (90436345)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授    (22401)	
研究分担者	金 さやか  (Konn Sayaka)  (50736585)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教    (22401)	
研究分担者	小池 祐士  (Koike Yuuji)  (10610694)	埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教    (22401)	
研究分担者	藤縄 理  (Fujinawa Osamu)  (00315722)	福井医療大学・保健医療学部・教授    (33404)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	佐藤 満  (Satou Mituru)  (10300047)		
研究協力者	小室 貴之  (Komuro Takayuki)		
研究協力者	渡辺 明子  (Watanabe Meiko)		
研究協力者	茂木 有希子  (Mogi Yukiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関